

振興ちば

第33号

令和6年
9月



富里市 旧岩崎家末廣別邸の紅葉

馬のふるさと 富里市

目次

表紙のまち 富里市	1-2
まちのイチオン	
野田市 柏市	3
富津市 浦安市	4
八街市 印西市	5
南房総市 大網白里市	6
多古町 九十九里町	7
横芝光町 大多喜町	8
千葉県からの情報	
「千葉県特定再生資源屋外保管業の規制に関する条例」が4月1日に施行されました。	9-10
千葉県からの情報	
県産農林水産物	
重点プロモーションについて	11-12
専門家が読み解く自治体の今	
安心安全な県民生活に向けた	
千葉県の医療体制の確立に向けて	13-18
市町村職員の紹介	19
自治落書き	20
市町村振興協会だより&編集後記	21-22

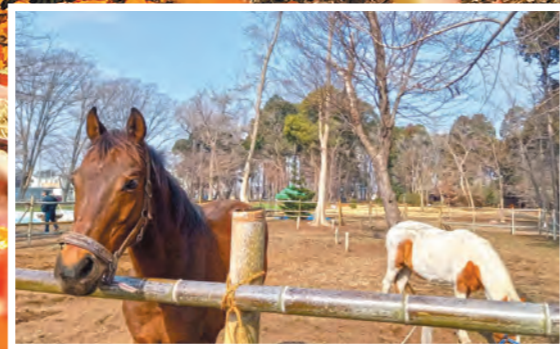


このちびむすも豊穡の里

富里には江戸時代、徳川幕府直轄の牧がありました。明治維新を経て、大久保利通卿により日本で最初の牧羊場（下総牧羊場）が開設。昭和17年に「下総御料牧場」と改称した後、イギリスから種牡馬が輸入され、日本ダービーなどのタイトルを獲得した優駿を数多く輩出しました。野馬から競走馬へと至る「富里と馬」の歴史は現在も脈々と受け継がれ、現在も市内には十数件の牧場・乗馬クラブが点在しているほか、「競走馬のふるさと案内所」には競走馬に関する資料が多数所蔵されています。

富里市はまた、日本有数のすいかの名産地であり、全国的にも知られている「富里スイカロードレース大会」は、毎年多くのランナーが参加する人気の大会です。また、秋冬に人気の生産量は全国トップであり、最盛期には、にんじん畑を眺めながら市内をのんびり歩く「にんじんウォーク」も開催されます。

心地よい秋風の中、「旧岩崎家末廣別邸」で紅葉狩りを楽しみ、乗馬クラブでの乗馬体験やウォーキングイベントに参加してみたいかですか。富里の秋は、爽快で健康的な体験が目白押しです。



秋に、富里ならではのイベント「馬とのふれあいDay」を開催します（2024年は10月5日に開催）。馬と富里の歴史を学ぶ展示や、旧岩崎家末廣別邸公園での乗馬体験、ふれあい体験、ワークショップなどが行われます。

「富里スイカロードレース大会」毎年6月開催



夏の風物詩となった名物ロードレースです。水分補給は、給水所ならぬ「給スイカ所」で、ランナーの喉を甘い果汁でうるおします。同時期に「富里市すいかまつり」も開催され、すいかにまつわる様々な催しを楽しむ多くの人で賑わいます。



第13回 富里にんじんウォーク 11月30日(土)開催

詳しくは富里市ホームページ、公式SNS等でお知らせします。



画像提供：富里市

★お出かけ前にホームページなどで最新の情報をご確認ください

ゆっくりのんびり 「にんじんウォーク」

収穫目前のにんじん畑を背景に、まちをめぐる楽しいイベントです。富里産にんじんを使った試食の提供や抽選会など、イベントも多数実施予定。小学生（要同伴者）からシニアまで、誰でも参加できます。



香り高く甘い「富里にんじん」

冷たい風が鮮やかな朱色の実を引き締める11月ごろ、富里にんじんは収穫の最盛期を迎えます。北総台地の豊かな土壌で、寒暖の差を乗り越えたにんじんは、香りが高く甘みも強く育ちます。

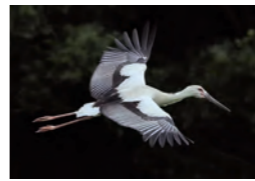
野田市

健康で笑顔あふれる
まちづくりを



野田市は、利根川や江戸川などに囲まれた水と緑に恵まれたまちです。歴史的に、市の北部は江戸の防衛と水運の要衝である関宿城の城下町として、南部は江戸っ子の食文化を支えた醤油醸造業の町として発展してきました。

近年、首都圏では希少となった谷津田(斜面林に囲まれた谷地にある田んぼ)を保全しており、恵まれた自然環境を次世代につなぐと、農業や化学肥料をできるだけ使わない米づくりを進めています。平成24年から、田んぼの食物連鎖の頂点に立つコウノトリを生物多様性のシンボルとして位置付け、野生復帰事業を進めた結果、令和6年春に野田の自然環境でペアリングし、孵化ヒナが誕生、野田の空へ巣立つことで、野生復帰が実現しました。



また、太平洋戦争を終戦に導いた第42代内閣総理大臣の鈴木貫太郎翁や近代将棋の礎を築いた関根金次郎十三世名人が輩出されており、

市内には偉業を後世に伝える記念館がそれぞれ設置されています。鈴木貫太郎記念館は、19年の台風の影響で雨漏りが発生し、耐震強度不足が明らかとなったことから臨時休館しています。市では、功績を後世に伝えるために、資料の展示や収集、保存に必要な設備を整備して、多くの人が繰り返し訪れる魅力を持つ記念館に再建し、あわせて、関宿地域の賑わいづくりを行っていく予定です。

市では、昨年4月に「健康スポーツ文化都市」を宣言しました。この宣言では、健康は市民すべての願いであり、まちの活力の源であること、また、子どもから大人まで、障がいのある人もない人も、スポーツや文化活動を通じて人と人との交流を深め、人間力を育み、人づくり、まちづくりにつなげていくことを誓っています。

来年には市制施行75周年を迎えます。今後も、豊かな自然環境や培われてきた歴史と文化を大切にしながら市民の皆さんが安全に安心して暮らせるまちづくりに取り組んでまいります。

富津市

「誇りと愛着を持てるまち
ふつつ」の実現に向けて



富津市は、房総半島の中西部東京湾側に位置し、南北40kmにおよぶ海岸線、緑豊かな鹿野山、切り立った崖の鋸山、晩秋の溪谷を鮮やかに彩るもみじロードなど海と山に囲まれ千葉県下でも有数の自然環境を有しています。

本市北部の東京湾に突き出した富津岬は南房総国定公園に指定され、千葉県立富津公園、富津海岸潮干狩り場、富津海水浴場など、多くの観光客の皆さまをお迎えしています。富津岬先端の明治百年記念展望塔に登れば、歴史ある海堡や船舶の行き交う東京湾、その先には雄大な富士山も望むことができます。



また本市では、昨年4月に市民の皆さんが待ち望んでいた図書館施設をイオンモール富津内に開館しました。商業施設の中の図書館ということで、市民の皆さんの日常生活圏に溶け込むスタイルの図書館であり、当初の予想をはるかに超え、開館後半年で来館者10万人を達成しまし

た。この図書館を基幹館と位置づけ、これまでの公民館等図書室、移動図書館に加え、図書館と主要施設を結ぶ図書の配送や小中学校、福祉施設などへの団体貸出等を行う軽自動車型の図書館車など、すべての図書施設の連携により市内全域の図書サービスのネットワーク化を図ることで、より市民の皆さんが利用しやすい図書環境の構築を進めています。



令和4年6月には、今後の市の総合的かつ計画的なまちづくりの指針となる「富津市みらい構想」を策定しました。本構想では、目指す10年後の将来像を「誇りと愛着を持てるまち ふつつ」とし、市民の皆さんとの連携・協働のもと、その実現に向け取り組んでいます。

これからも市民の皆さんと行政がともに手を携え、ふるさと富津市の未来を築き、富津市に住んで良かった、住み続けたいと感じていただける魅力的なまちづくりを推進してまいります。

柏市

「つづくを、つなぐ。」を合言葉に
変化を恐れず進んでいく



柏市は、柏駅を中心に賑わいと活気のある中央部、先進技術の研究開発を行い公民学が連携してまちづくりを進める北部、豊かな自然が残る手賀沼や良質な住居エリアが広がる東部や南部など、エリアごとに特色があります。

思い出とともに新しい物語へ

今年、市制施行70周年を迎え、柏市に対する前向きな気持ちや市民の皆様と共有できるよう、様々な記念事業を実施しています。5月には、柏駅前のシンボルだった旧そごう柏店の解体前に、柏駅前の発展の軌跡をたどる写真展や、昭和の熱気あふれる縁日などを行った、3日間限定のイベント「プレイバック柏」を開催しました。たくさんの方の思い出が詰まったこの場所への関心は高く、イベントには定員の10倍近くの3万7千人の応募がありました。今後、駅前の再整備は、再び始まる柏駅前の新しい物語へと続いていきます。また、例年



開催される柏まつりでは、柏おどりの曲調をアレンジした「シン☆柏おどり」が初登場。柏駅前が熱く盛り上がりました。



「Teetote」で子育てを応援

3月には、子育て支援のシンボルとなる柏市子ども子育て支援複合施設「Teetote(てとて)」を柏駅前に開設しました。妊婦から高校生まで、すべての年代を対象に、子どもも成長にあわせて居場所づくりや親への支援に取り組んでいきます。



「住み続けたいくなる、魅力的なまち・柏」を目指して

これまで市民の皆さんと共に作り上げてきた今を受け継ぎながら、変化を恐れずに進みつづけ、愛される柏を未来につなげていくことを目指して、これからも柏市の価値向上に努めていきます。

浦安市

人が輝き躍動するまち・浦安
すべての市民の幸せのために



浦安市は、かつては陸の孤島と呼ばれた漁師町でしたが、今では、首都圏屈指の住宅都市、東京ディズニーリゾート®を擁するアーバンリゾートのまち、日本最大の機能を誇る鉄鋼流通基地を持つまちとして発展を遂げました。住宅開発などが最終盤となり、成熟期を迎えるなか、まちの活力や心の豊かさを醸成する「質的充実」に軸足をおいたまちづくりに取り組んでいます。

誰もが生き生きと暮らせるまちへ

自治会集会所などで地域包括支援センターのサテライトを開設し、市民の身近な場所での相談を実施するとともに、地域包括支援センターにスクラライフカウンセラーを配置し、親の介護と子育てという「ダブルケア」にも対応しています。子ども医療費の高校生相当年齢までの無償化や小・中学生の学校給食費の無償化、病児保育の充実など子育てしやすい環境の充実を図っています。子どもたちの多様な学びの場の確保として、県立特別支援学校の開

校に向け、千葉県と連携して取り組むとともに、学習意欲はあるものの学校に行けない生徒のために、千葉県内初となる「学びの多様化学校」の令和7年度開校に向け取り組んでいます。

世界につながる観光都市へ

本市は、年間約3000万人が訪れる観光都市であり、この優位性をまちづくりに活かし、国際会議などMICEの誘致を進めるとともに、国際観光都市としてふさわしい行政サービスが提供できるよう宿泊税の導入を検討しています。

また、本市の水際線を活用した自転車ロードレースの浦安クリテリウムや、花火大会・マラソン大会の開催など、人流の活発化を図り、さらなるまちの活力を創出していきます。



八街市

「のどかさ」と「便利さ」とが 共存する安心して暮らせる八街

千葉県と言えば、「落花生」。
そんなイメージを固定させるほど、強いうま味を持つ落花生がたくさん八街市で育ち、日本有数の生産量と味を誇っています。

八街市は、千葉県北部のほぼ中央に位置し、市の中心部は市街地を形成して、周囲には平坦な畑作地帯、西部や北部に水田地帯が点在するなど、豊かな自然が多く残っています。



この肥沃な大地と都心から近いという地理的条件を活かした都市近郊農業を基幹産業とし、八街市は発展してまいりました。主な農産物は、りんじん、すいか、さつま芋、里芋、生姜、落花生であり、「八街産落花生」は、千葉県の地域ブランドとして地域団体商標に登録されており、落花生を専門に売っている小売店が市内各地にあり、その店舗数でも日本です。

また、八街産の「にんじん」等を使用した「キャロットジュース」や、八街産の生姜を使用した「八街生姜ジンジャーエール」、「八街生姜ジンジャー」

「エールドロップス」などが民間で商品化されるなど、6次産業化も進み、新たな特産品も生まれています。

そのほか、豊かな自然の中で落花生などの掘り取り体験ができる観光農園や乗馬体験ができるスポットなど、みなさんが知らない素敵な場所がたくさんあります。



近年は、新たな民間の取り組みとして、八街市の小谷流地区の里山を利用した愛犬と一緒を楽しむ日本最大級の複合型リゾート「小谷流の里ドギーズアイランド」を核とした大型リゾート開発が進められているほか、このリゾート地に隣接し、構造改革特区として認定された「八街市ワイン特区」を活用したワイン醸造も行われており、今後も、豊かな自然環境と良好な生活環境が調和した「のどかさ」と「便利さ」とが共存する八街市の魅力を活かし、行政と地域・企業等が一体となって、「安心して暮らせる八街」の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

南房総市

豊かな自然を活かして 地域の魅力を高める

南房総市は、房総半島の南端に位置し、北側には千葉県最高峰の愛宕山をはじめ、富山、伊予ヶ岳などの緑濃い山々が連なり、三方を東京湾と雄大な太平洋に囲まれた美しい景観に恵まれています。

特産品は、皇室に献上している房州枇杷をはじめ、苺や蜜柑、アワビ、鯨など、海の幸、山の幸が豊富にあります。

また、東京都心、千葉市や横浜市から車で70分の距離にあつて利便性が高く、夏は涼しく、冬は暖かく、年間を通じて暮らしやすい地域です。

産業は、農林水産業と観光業が盛んで、特に、温暖な気候を活かした冬の露地花栽培と花摘み観光、国定公園に指定された海岸線に色とりどりの花畑が広がる風景は南房総市の象徴です。

道の駅は市内に八つあり、数としては岐阜県高山市、郡上市と並んで全国で最多です。海の近くや山の近くなど、それぞれの道の駅に違った個性があり、新鮮な野菜



レトロな雰囲気の魅力の「岡本棧橋」

や花、果物、海産物の販売が行われ、レストランでは「びわカレー」や「鯨料理」など、特産品を使ったお食事も提供しています。

他には、日本で唯一、料理の神様を祀る「高家神社」や日本で初めての洋式灯台である「野島埼灯台」、南総里見八犬伝の舞台となった「富山」などの観光スポットも数多くあり、サーフィンや海水浴など海のレジャーも盛んです。

最近では、百年ほど前に造られた「岡本棧橋」が注目され、レトロな雰囲気の魅力を感じて訪れる人が増えています。

南房総市の財産である豊かな自然、歴史資産を活かして地域の魅力を高め、「また訪れたい」「住んでみたい」「暮らし続けたい」と感じていただけるよう、これからも努力してまいります。

印西市

自分らしく過ごせる 住みよさ実感都市の実現へ

印西市は、都市と自然が調和し、市民の皆さんが住みよさを実感できるまちづくりを進めています。

利根川・印旛沼・手賀沼などの水資源や里山に代表される豊かな自然環境に恵まれた本市は、都心から約40km、成田国際空港から約15kmと利便性が高い場所に位置しています。特に、千葉ニュータウン地区には、強固な地盤と高度な都市基盤を背景に、住宅をはじめ、大型商業施設やデータセンターなどの企業が集積しています。



子育て世代を中心に、人口、世帯数ともに増加が続く千葉ニュータウン中央駅圏に「住みよいまちの豊かな暮らしを育む複合拠点」をコンセプトとした（仮称）千葉ニュータウン中央駅複合施設整備事業を進めています。事業エリア内には、令和7年4月の開館に向け、多種多様な行政ニーズに対応するための健康・福祉・子育てに

関する窓口や、隣接する県立北総花の丘公園と一体的に利用できる開放的な芸術ホール、カフェなどを配置した複合施設を整備しています。その後も、民間クリニックや立体駐車場などの建設を進める予定です。複合施設を含めたエリアの愛称は、市民の皆さんからの募集や投票の結果などを参考に「コスモスパレット印西」に決定。多くの皆さんに親しまれ、誰もが色とりどりに輝き、過ごせる拠点となることを目指します。



JR成田線が走る木下地区には、駅周辺のにぎわいの創出を目的として、令和5年9月に木下駅前ににぎわい広場を開設しました。総面積約1万3千平方メートルの芝生広場では、今年新たに夏祭りを開催したほか、印西ににぎわいフリーマーケット&軽トラ市が毎月行われるなどし、県内外から多くの皆さんが訪れ、にぎわいを感じる場となっています。

大網白里市

笑顔あふれる まちづくりを目指して

大網白里市は、九十九里平野のほぼ中央に位置し、西の丘陵部、中央の田園部、東の海岸部という自然豊かな風土と都心への優れたアクセス機能を併せ持つまちです。

平成25年1月1日には、千葉県で37番目の市として、単独での市制施行を実現しております。

昨年、市制施行10周年を迎えた本市は、これまで一貫して、「未来に向けて、みんなであつくりたい・住みたい・住み続けたいまち」を市の将来像として掲げ、各種施策に取り組んでまいりましたが、現在もその実現に向けて、市民の皆様とともに魅力的で元氣なまちづくりを進めてまいります。

なかでも、急速に進む人口減少や少子高齢化への対応を本市の重要課題と位置づけ、「子育て支援館」や児童館を備えた複合施設「子育て交流センター」を整備し、行政・地域が



一体となって子育てを支援する体制づくりを進めるとともに、不妊治療費の助成をはじめ、通学定期券購入費や結婚後の新生活費用の補助等、各種支援制度の充実を図り、安心して結婚・出産・子育てができる環境の整備に取り組んでまいります。

また、近年、レジャーの多様化により、全国的な海離れが進んでおりますが、本市においても、海水浴客は減少傾向にあり、海水浴中心の夏季観光から通年型観光への転換が大きな課題となっております。このため、白里海岸部一帯を「海浜レクリエーションゾーン」として位置づけ、様々なイベントを開催するとともに、白里海岸の美しく豊かな自然や地域の産業・歴史・文化を活かし、新たな賑わいを創出する道の駅などの交流拠点の整備検討も進めてまいります。

今後も、本市の魅力をさらに高め、子どもからお年寄りまで、誰もが笑顔で暮らすことができる魅力あるまちづくりを進めてまいります。

多古町

ここでしか味わえない
魅力的な暮らし

みんなが子育てを応援するまち

多古町は、「待機児童0」「中学生までの給食費0」「大学生までの医療費0」の子育てにやさしい3つの「0」や公立病院での病児保育など子育て施策に力を入れています。

また、成田空港に近い立地を生かして空港と町を結ぶ空港シャトルバスを充実させ、空港から都市部などへの通勤・通学へのアクセスをサポートしています。さらに、子育て世代を中心に移住定住を図るため、官民連携事業として、子育て支援住宅をすくすくテラス（こ）を整備しました。このように、子育て施策を含めたさまざまな事業で高い評価をいただき、



第5回「日本子育て支援大賞2024（自治体部門）」を受賞しました。今後も、安心して子育てができる環境づくりに努めていきます。

町村合併70周年
魅力と活力にあふれるまち

自然豊かな田園風景が広がる中、



栗山川沿いの「あじさい遊歩道」では、桜やあじさい、コスモスなど四季折々の花々を楽しむことができます。また、道の駅

多古「あじさい館」では、食味日本に輝いたこともある「多古米」や全国でも屈指の生産量を誇る「やまと芋」など幸せを呼ぶ多古の恵みが盛りだくさん。多古町自慢の新鮮で多彩な特産品が並ぶ「ふれあい市場」には多くの人が訪れ、「キッチンTAKO」では多古の恵みをたっぷり味わえる食事やデザートも楽しめます。

今年10月には、多古米祭りや町村合併70周年記念式典が開催され、多古町のマスコットキャラクターでおおの妖精の「ふつくらたまこ」さんも10周年を迎えます。他にも11月23日に開催するいきいきフェスタTAKOなど、さまざまな催し物がありますので、ぜひお越しください。



横芝光町

「全ての世代が暮らしやすい
魅力的なまち」を目指して

横芝光町は、千葉県北東部に位置し、東京都心から約70km、千葉市から約40km、成田国際空港からは約20kmの距離にあります。北は香取郡多古町と山武郡芝山町、東は匝瑳市、西は山武市に隣接し、南は白砂青松の続く九十九里平野が広がり、太平洋に面しています。九十九里平野における最大の河川栗山川が、中央部を北から南に向けて流れています。

公共交通は、JR総武本線があり、横芝駅から千葉駅まで普通列車で約1時間、東京駅まで特急列車利用の場合は、約1時間20分で連絡しています。また、横芝光IC北側に東京行き高速バスの停留所があり、こちらも約1時間20分で東京駅にアクセスが可能です。

近年では、圏央道の大栄～横芝間の整備や銚子連絡道路二期区間（横芝光～匝瑳間）が開通したことで、成田空港の更なる機能強化に伴う成田空港直結道路の推進などにより、広域的な交通利便性の向上が高まっています。



EVバス

更に、町内では高齢化の進行による自家用車以外での移動需要の増加、運送業界のドライバー不足、いわゆる2024年問題に対応するため、令和6年2月から自動運転走行が可能なEVバスを導入・走行させることで、「全ての世代が暮らしやすい魅力的なまち」として選ばれるよう既存の公共交通と連携した新しい交通ネットワークの構築とスマートシティの実現に取り組んでいます。

今後も、町の将来像である「人・自然・文化が奏でる暮らしを夢広げる幸せ実感のまち 横芝光」を目指し、一人一人が安全で安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります。

九十九里町

豊かな自然環境を活かした
観光と子育て施策で
より住みよい町を目指して

九十九里町は、九十九里浜のほば中央に位置し、目の前には黒潮踊る雄大な太平洋を望み、気候も温暖であるふれる太陽と豊かな自然に恵まれた町です。素朴な自然環境は、古くから多くの文豪や歌人に愛され、訪れた人を虜にしよう魅力があります。

本町では、豊かな自然環境である九十九里浜を最大限に活用した、ビーチスポーツを軸としたイベントとして、「ビーチライフin九十九里町」を昨年、初開催しました。国内初、砂浜を自転車で行くビーチクロスや、ビーチサッカーやバレーボールなどのスポーツ、ちびっこはだし運動会や飲食ブースなど、家族連れで楽しめる海水浴以外のプログラムが盛りだくさんでした。



ビーチサッカー

ほかにも、九十九里町の夏を象徴する「ふるさとまつり」や、伝統芸能を継承し歴史をつなぐ「郷土芸能まつり」、東金市と合同での「東金・九十九里波乗りハーフマラソン」



ふるさとまつり

の開催など、賑わいが戻ってきたような年でした。従来のイベントのみならず、「ビーチライフin九十九里町」のような新しいイベントを開催し、九十九里町では観光やイベントに元気が戻ってきています。

また、本町は、教育や子育て世帯の応援に特に力を入れています。毎月一回、千葉県産の食材をふんだんに使った「千産千消」給食を提供しており、今年7月には、九十九里漁業協同組合に協力いただき、九十九里産のはまぐりの給食が実現しました。「千産千消」給食を通じて、ふるさと九十九里町の食材や食文化に興味をもつ機会となることを願っています。



はまぐりの給食

また、小中学校の給食費の完全無償化や、こども園での使用済みオムツの持ち帰りの廃止、体操教室・英語教室の実施など、町独自の取り組みがたくさんあります。こうした取り組みにより、子育て世帯に愛される、より住みよい町となることを期待しています。

大多喜町

伝統を引き継ぎ、
歴史を受け継ぐまち

大多喜町は、城下町としての長い歴史と伝統、そして恵まれた自然や豊かな文化のあるまちです。

また、本町は昭和29年10月5日に老川村、西畑村、総元村、上瀑村及び旧大多喜町の合併により誕生し、今年70周年の記念の年を迎えました。そんな本町の今年の新たな事業として、多目的庁舎の建設事業が始まりました。令和8年の完成に向け進めています。この多目的庁舎は、町民の安全と安心を目指し、災害対策拠点に相応しい機能の充実を図ることとしています。また、建物の特徴としては、長い歴史がある本町らしい景観の庁舎となることを目指しています。

大多喜町役場の庁舎は、昭和34年に今井兼次氏の設計により中庁舎（旧本庁舎）が完成しました。平成15年9月3日にユネスコアジア太平洋文化遺産保全賞の Award of Merit（功績賞）を受賞しました。この賞は世界遺産の登録を行っている国際機関ユネスコのバンコク支部が



化遺産保全賞の Award of Merit（功績賞）を受賞しました。この賞は世界遺産の登録を行っている国際機関ユネスコのバンコク支部が



平成23年に完成しました現在の本庁舎は、中庁舎の増築として計画され連絡橋で繋がっています。城下町大多喜に見られる伝統的な木造町家の屋根骨組から印象を得て、既存の庁舎に呼応する現代的な先駆的な構造で表現されています。ぜひ大多喜町を訪れましたら、歴史的に価値のある建物を一覧ください。

千葉県特定再生資源屋外保管業の規制に関する条例」が4月1日に施行されました。

条例制定の背景

近年、資源の有効利用の観点から資源リサイクルを推進することが重要とされている中、県内には、有価物である金属スクラップ、使用済みプラスチック等を屋外で保管し、また、保管に伴い破碎、切断をするなどの事業を行う事業場、いわゆる金属スクラップヤード等が多数確認されています。一部の事業場においては、高積みなどの不適正な保管による崩落の危険や火災の発生、事業場内での作業に伴う騒音等が発生しています。

一方で、金属スクラップ等は売買の対象物として有価で取引されているため、廃棄物には該当せず、廃棄物処理法の保管基準を適用することができません。

そのため、金属スクラップ等の不適切な保管等を行う事業者に対して、廃棄物のように規制をすることができず、是正等の指導にとどまってしまうという状況でした。

こうした状況に鑑みて、金属スクラップ等の再資源化の適正な実施を図るため、必要な規制を行うことにより、県民生活の安全を確保するとともに、生活環境の保全上の支障の防止を図ることを目的に、令和5年10月に条

例を制定し、本年4月1日から施行しました。

条例の主な内容

(1) 規制対象

屋外において、金属スクラップ等を積み上げる作業の用に供することができる機械を使用して保管をする事業。

(2) 規制手段

- ア 事業場ごとに事業許可の取得
- イ 許可申請前に事業場の周辺住民に対する説明会の開催等
- ウ 保管物の崩落や火災の発生等を防ぐための基準遵守
- エ 事業場に現場責任者の設置

(3) 実効性の確保手段

条例の実効性を確保するため、条例に違反した場合の命令等及び罰則を規定。金属スクラップヤード等に係る事業を行っている者と認められる者に対して、条例の施行に必要な限度において、報告徴収及び立入検査

など条例の規制内容と、1年間の経過措置の期間内に許可申請する必要があることなどを周知しました。その際、ヤードの運営者については、外国籍の者が多いことから、適宜、通訳を同行しました。

条例施行後の取組

本年度、改めて県民だより、SNS等を通じて、県民等への広報を行いました。また、条例の規制対象となる事業場を精査し、条例

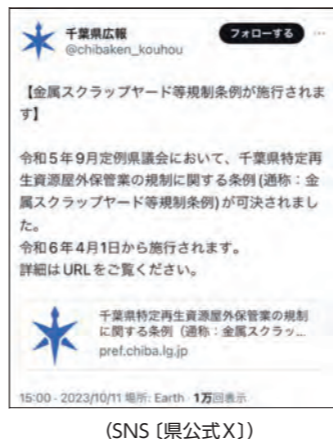
査権も規定。

(4) 既存事業者への対応

既存事業者にも許可取得を義務付け、条例の各規定への適合に必要な期間を1年間設けた。

条例施行に向けた取組

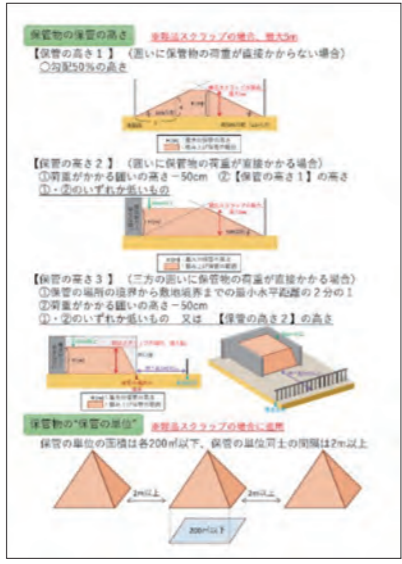
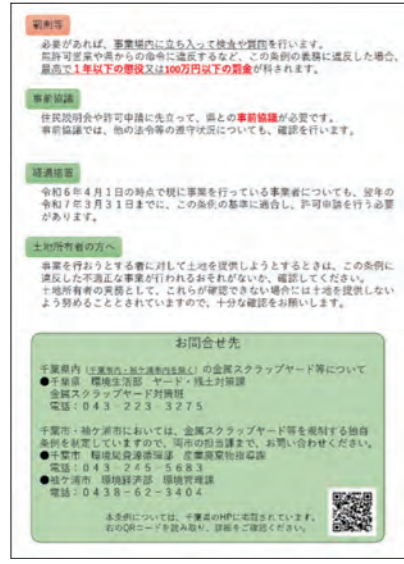
県では、条例を県民等へ広く周知するため、県ホームページや県民だより、SNSを通じて



の適用となる381か所（令和6年5月末現在）のヤード全てを再度訪問し、条例の規制内容等を説明するとともに、申請等の手続きや遵守事項をわかりやすく記載した手引きを配布して、早期に許可申請をすること、基準を遵守することなどを指導しました。

おわりに

不適正なヤードの一掃に向けて、事業者に対して本条例に基づく立入検査などにより、許可取得や、基準の遵守状況などを確認し、適宜、市町村などの関係機関と連携して厳正に指導してまいります。



(リーフレット)



(重機を用いて保管している状況)

県産農林水産物重点 プロモーションに力を入れる

県産農林水産物が消費者から優先的に選ばれるよう、千葉県の顔となる品目を核として集中プロモーションを行い、全国的なイメージ定着を図ります。

事業概要

本事業は、県内外の消費者に向けて、県産農林水産物の魅力を一層発信するため、日本なし、さつまいも、米（粒すけ）など千葉県の顔となる品目（以下「重点品目」）を核とした集中プロモーション等を行い、消費者に

取組内容

重点品目は、千葉県が代表的産地であることや、質にこだわった生産をしていること、特徴的な歴史的背景を有することなどを総合的に勘案し、日本なし、さつまいも、米（粒すけ）を選定しています。

選ばれるおいしい千葉の農林水産物としてのイメージアップに取り組みます。

(1) 日本なし

日本なしは、江戸時代から長い年月をかけておいしい梨を作る技術が蓄積されてきた産地であり、生産量・栽培面積・産出額ともに全国第一位（令和四年）です。

昨年度は、「日本一の千葉の梨」を訴求する動画を作成するとともに、消費者の認知を獲得するため、特設サイトによるプレゼント



生産量日本一
千葉の梨

紅(ルージュ)のご褒美
～千葉県産さつまいも～



極上の大粒体験。
粒すけ

(3) 米(粒すけ)

米（粒すけ）は、県開発のオリジナル品種で、粒の大きさ、おいしさを伝える新たなキャッチコピーを掲げ、学校給食等の取組紹介やイベント、広告により、県内のファミリー層を中心として訴求しています。

昨年度は、学校給食や食育イベント等を活用したプロモーションを展開し、千葉県旭市立干潟小学校にて「学べる粒すけ授業」を実施しました。また、生成AI（人工知能）を活用し、新しいキャッチコピー「極上の大粒体験。」を開発しました。

今年度も粒すけの魅力発信とさらなる認知度向上を図っていきます。



極上の
大粒体験。
粒すけ



(4) その他

昨年度、日本なし、さつまいも、粒すけなど重点品目PRリーフレットを制作し、県内全小学校へ配布しました。



安心安全な県民生活に向けた 千葉県の医療体制の確立に向けて

株式会社ちばぎん総合研究所

調査部 主任研究員 大塚裕美

はじめに

すべての団塊世代（1947～49年生まれ）が75歳以上の後期高齢者となり医療・介護需要の増加が見込まれる「2025年問題」が間近に迫っています。千葉県は、人口当たりの医師数や看護師数が全国最低水準にあり、増大する医療ニーズに対応できる医療体制の整備が喫緊の課題となっています。

本稿では、千葉県医療体制の現状と課題及び将来推計人口に基づく今後の医療資源の見通しについて統計・文献調査や住民向けアンケート調査結果から整理したうえで、誰もが安心して医療が受けられる体制を確保するための取り組みと今後の方向性について提言を行います。

I. 千葉県医療体制の現状と課題

1. 千葉県の医療環境

(1) 千葉県の医療資源

① 医療従事者数

千葉県（人口10万人当たり）の医療従事者の推移をみると、医療施設従事医師数は、2012年の172.7人から22年には209.0人（12年比+21.0%）、就業看護師数は、12年の572.0人から22年には796.2人（同+39.2%）と増加傾向が続いています。

都道府県別にみると、千葉県は、医療施設従事医師数が全国45位（209.0人）、就業看護師数が同46位（796.2人）と、埼玉県や神奈川県と並んで全国最低水準となっています。

② 医療施設数、病床数

千葉県（人口10万人当たり）の医療施設数の推

国最低水準にあるものの、全死因死亡率の観点からすれば、医療の質は保たれているとも考えることができ、現時点で必ずしも医療供給体制に絶対的な不足が生じているとは断言できません。もっとも、この評価はあくまでも現時点のものであり、今後、千葉県の高齢化率は1都3県で最大の伸びになっていくことから、引き続き医療体制の整備を進める必要があります。

（※1）医療の過不足の評価は難しいが、むしろ四国や九州などの西日本が相対的に「医療過剩」地域である可能性もあります。

(2) 調査結果

- ▽ かかりつけ医に関する満足度指数は、千葉県全体では11.0で前回調査比+16.9ポイント増加。すべての二次保健医療圏で前回調査比増加しています。
- ▽ 休日・夜間等緊急時診療体制に関する満足度指数は、県全体で24.9と前回調査比+1.5ポイント増加。山武長生夷隅・東葛南部を除く二次保健医療圏で前回調査比増加しています。
- ▽ 医療・福祉施設の利用に関する満足度指数は、県全体で23.0と前回調査比+8.4ポイント増加。君津・市原では前回調査比+20ポイント以上増加しています。
- ▽ 行政や住民の健康づくりに対する意識にかかる満足度指数は、県全体で▲22.8と前回調査比+0.5ポイント増加。もっとも水準はすべての二次保健医療圏で前回・今回調査ともマイナス水準となっています。

(3) アンケート結果と統計データの比較

① 「信頼できるかかりつけ医がいる」と「医師数」の比較

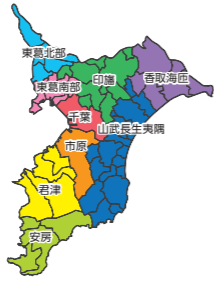
「信頼できるかかりつけ医がいる」の偏差値と10万人当たり医療施設従事医師数の関係を見ると、医師数の多い医療圏は偏差値が高く、逆に医師数の少ない医療圏は偏差値が低い傾向がみられ、一定の相関関係があると考えられます。

千葉県の医療資源を二次保健医療圏別にみると、「安房」は中核病院である亀田総合病院の存在から、医療資源の状況の各項目で1位となつていま

す。医療施設従事医師数では、「安房」（530.6人）が、最も少ない「山武長生夷隅」（131.8人）の4.0倍、病院病床数は、「安房」（2308.1床）が、最も少ない「東葛南部」（808.2床）の2.9倍と医療資源の状況には地域差がみられています。

図表2 二次保健医療圏

圏域	構成市町村
千葉	千葉市
東葛南部	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、鎌ヶ谷市、浦安市
東葛北部	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市
印旛	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、酒々井町、栄町
香取海匠	鏡子市、旭市、匝瑳市、香取市、神崎町、多古町、東庄町
山武長生夷隅	茂原市、東金市、勝浦市、山武市、いすみ市、大網白里市、九十九里町、芝山町、横芝光町、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町、大多喜町、御宿町
安房	館山市、鴨川市、南房総市、鋸南町
君津	木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市
市原	市原市



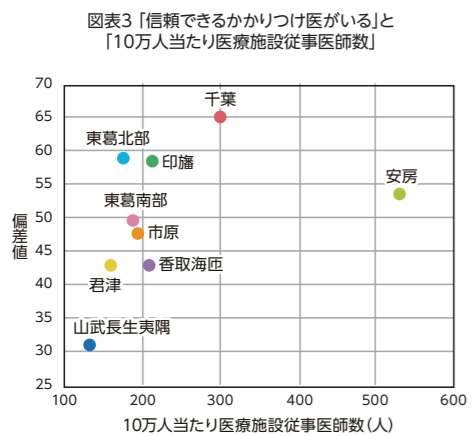
(2) 人口動態(死亡)

千葉県の全死因死亡率（人口10万人当たり）は、全国41位（1184.6人）となつています。死因別では、悪性新生物（腫瘍）は同41位（299.0人）、心疾患（高血圧性を除く）は同39位（186.9人）、脳血管疾患は同37位（80.7人）と相対的に低くなつています。

全死因死亡率（年齢未調整）を縦軸、医師数、病床数を横軸としてみると、全体的には正の相関関係はみられませんでしたが、すなわち、千葉県は人口当たりでみれば人的・物的資源は全

対象	○県内自治体に居住する3,000人 (基本的に人口比で自治体別に抽出)
設問	○信頼できるかかりつけ医がいる ○休日・夜間や緊急時にかかれる医療機関がある ○医療・福祉施設が近くにあり、便利である ○行政や住民の健康づくりに対する意識が高い
回答形式	○「①とてもそう思う」 「②ややそう思う」 「③あまりそう思わない」 「④全くそう思わない」の4択
集計方法	○各設問について 「①×2+②×1+③×(-1)+④×(-2)」を算出 (=「満足度指数」とする) ⇒その数値から、各二次保健医療圏の県全体の中での「偏差値」を算出

※「偏差値」(相対的水準)と「満足度指数」(絶対的水準)について分析。



図表3 「信頼できるかかりつけ医がいる」と「10万人当たり医療施設従事医師数」

②「休日・夜間や緊急時にかかれる医療機関がある」と「高度急性期・急性期病床数」の比較
 「休日・夜間や緊急時にかかれる医療機関がある」の偏差値と10万人当たり高度急性期・急性期病床数の関係を見ると、10万人当たり高度急性期・急性期病床数の少ない「東葛南部」「東葛北部」「千葉」などでも偏差値が高くなっており、明確な相関関係はみられません。

③「医療・福祉施設が近くにあり、便利である」と「医療施設数(病院+診療所)」の比較
 「医療・福祉施設が近くにあり、便利である」の偏差値と10万人当たり医療施設数(病院+診療所)の関係を見ると、施設数の少ない「東葛南部」「東葛北部」「市原」などでも偏差値が高くなっており、②と同様に、明確な相関関係はみられません。

II. 千葉県医療体制の将来像

1. 将来推計人口

ちばぎん総合研究所が、2020年国勢調査に基づいて22年6月に行った将来人口推計(54市町村別)によると、県内人口は20年の6284千人から45年には5944千人(20年比▲5.4%)まで減少する見込みです。このうち、65歳以上の高齢者人口は20年の1734千人から45年には2028千人(同+17.0%)まで増加し、高齢化率(総人口に占める65歳以上の

図表6 医療供給予測(10万人当たり病床数・千葉県全体) (単位:床)

病床基準	2021年時点	2025年時点(予定)					必要病床数	
		2025年A	2030年	2035年	2040年	2045年	2025年B	過剰/不足
高度急性期	111	110	111	112	114	116	90	20
急性期	373	369	372	377	383	390	284	▲85
回復期	102	108	108	110	112	114	243	▲135
慢性期	173	167	169	171	174	177	179	▲12
休養等	10	2	2	2	2	2	-	-
計	768	756	762	772	786	799	796	▲40

(注)千葉県保健医療計画、病床機能報告制度(2021年)の数値をもとに試算

供給を推計すると、2025年時点の病床数(供給予定病床数)―「必要病床数」は、県全体としては急性期病床が過剰となる一方、回復期病床や慢性期病床(都市部中心)で不足が生じる見込みです。二次保健医療圏別では、県下全域で回復期病床が不足となるほか、「東葛南部」「東葛北部」「千葉」「市原」など都市部を中心に

慢性期病床の不足が見込まれています。高度急性期病床では、「安房」「香取海匝」などで不足となる一方、「印旛」「東葛北部」で過剰となり、ばらつきが生じる見込みです。
 また、45年の医療供給予測指数(20年=100)は、「東葛南部」(94.0)、「東葛北部」(92.3)が「千葉県全体」(104.0)を下回り、20年より減少すると推計されます。
 (※2) 地域における病床の機能の分化及び連携の推進のため、一般病床又は療養病床を有する医療機関が都道府県に病床の機能や入院患者に提供する医療の内容等を報告する制度。

割合)は34.1%に達する見通しとなっています。二次保健医療圏別にみると、20年から45年にかけて「東葛北部」(同+6.0%)、「東葛南部」(同+4.2%)で人口増加が続きます。一方、その他の医療圏では20~25年をピークに減少すると推計されており、とりわけ「香取海匝」(同▲37.2%)、「安房」(同▲36.5%)、「山武長生夷隅」(同▲34.1%)は減少幅が3割を超える見通しとなっています。

2. 将来の医療需要

(1) 推計手法

日本医師会総合政策研究機構のワーキングペーパーに記載された、年齢階層別の医療費係数を用いて「年齢階層別将来推計人口×医療費係数」より医療需要を算出しました。

(2) 推計結果

千葉県医療の将来需要を推計すると、2045年まで一貫して増加を続ける見込みです。医療需要の増加には、「75歳以上」の増加が大きく影響しており、「0~14歳」「15~39歳」では、20年をピークとして減少傾向が続くと推計されます。

二次保健医療圏別でみると、45年の医療需要予測指数(20年=100)が「千葉県全体」(107.8)より高い地域は、「東葛北部」「東

図表4 医療費係数

年齢	0~14歳	15~39歳	40~64歳	65~74歳	75歳以上
医療費係数	0.6	0.4	1.0	2.3	3.9

(出所)日本医師会総合政策研究機構ワーキングペーパーNo.323
 「地域の医療提供体制の現状と将来―都道府県別・二次医療圏別データ集―」
 (注)「40~64歳」の一人当たり医療費を1.0とした場合の係数。各年齢階層の受療率は一定と仮定。

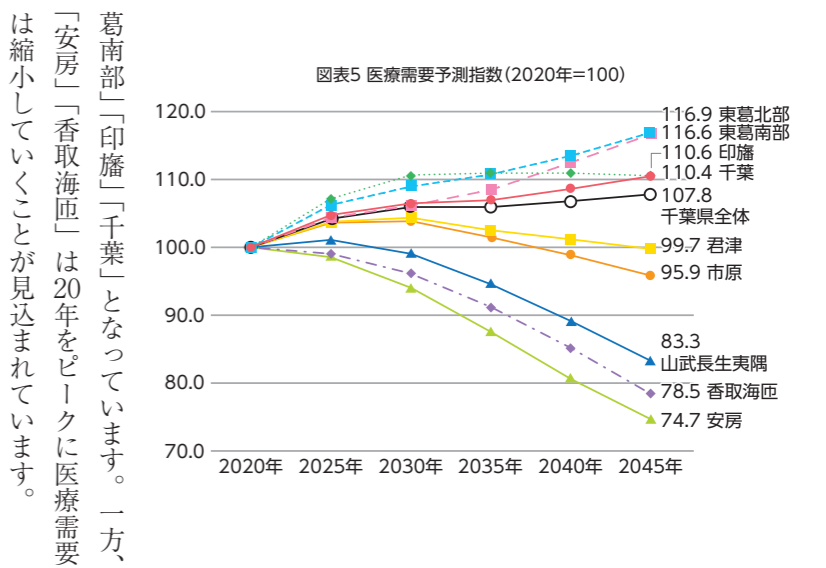
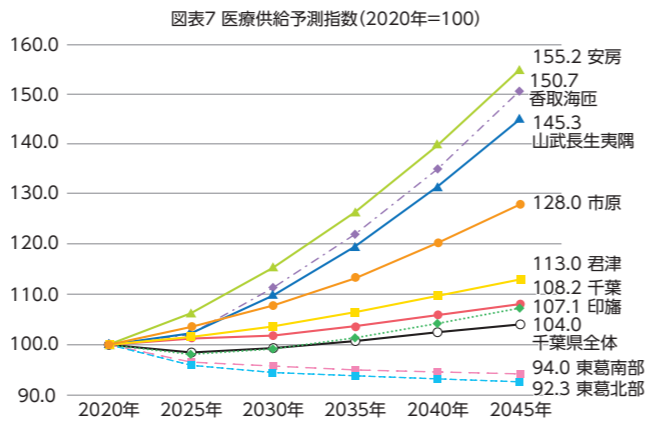
III. 提言

1. 県内医療体制の再構築

(1) 将来推計人口に基づく県内医療体制の早期整備

2020年国勢調査における千葉県の高齢化率は27.6%と1都3県で最も高く、千葉県では長期に渡って医療・介護需要が増加を続ける可能性が高くなっています。

将来の推計人口に基づく医療供給予測をみると、千葉県全体では急性期病床が過剰となる一方、高齢者人口の増加等から回復期病床や都市部を中心に慢性期病床で不足が生じることが見込まれています。こうした中、一部の病院からは、許可病床が「一般病床」と一括りになって



3. 将来の医療供給

(1) 推計手法

①供給量：県が公表する「病床機能報告制度」に基づく医療機能別病床数を基準にして、各年の推計人口を乗ずることにより算出。
 ②需要量：「千葉県保健医療計画」に基づく医療機能別必要病床数を基準にして、各年の推計人口を乗ずることにより算出。
 ③病床過不足数：①―②で算出。

(2) 病床数の需給過不足推計結果

千葉県の将来推計人口に基づいて将来の医療(高度急性期・急性期・回復期・慢性期など)の機能別になっていないため、不足している回復期病床を増床しようと思っても、圏域内の急性期病床が大幅に余っている下で、増床を申請しようとしても許可されないとの声が聞かれました。

国や県においては、一般病床(高度急性期・急性期・回復期・慢性期)の機能区分を考慮した許可病床配分や病床病床に対するペナルティ賦課の検討、医療機関や自治体首長等には機能転換や病床の返上に対する理解・協力を促し、圏域内病床数の適正化を図る必要があります。

また、千葉県全体の医療資源は10年前との比較では改善傾向にあるものの、全国最低水準にあります。現時点では、全死因死亡率の観点からいえば、医療の質は保たれているともいえるものの、高齢者を中心に医療需要の増大が続く一方、勤務医の時間外労働規制の導入などから医療資源供給の増強は容易ではなく、現在の医療の質が今後とも維持されることの保証はありません。

県内では、2017年に開学した国際医療福祉大学医学部(成田キャンパス)の卒業生が順次国家試験を経て医師として羽ばたいていきます。1年間の押し上げ効果が大きいとは言いがたいですが、毎年の卒業生が累積的に千葉県内に残ることによって、県内医療体制の早期整備(医療従事者の確保)に寄与することが期待されます。

(※3) 1都2県の高齢化率は埼玉県:27.0%、東京都:22.7%、神奈川県:25.6%。

(2) 二次保健医療圏毎の医療アクセスの平準化の促進

文献・アンケート調査の結果、県内における医療資源の充足度や住民の満足度には、二次保健医療圏間で偏りがあることが明らかになりました。

満足度との相関があるとみられる医師(かかりつけ医)数の平準化を進めることは有意義であると考えられる一方、医療機関については、救急医療に対する満足度や医療機関等の利便性に関して、人口当たりの医療資源との明確な相関関係はみられないことから、医療資源の差に目を向けるよりは、地域の中核病院へのアクセスを確保するとともに、医療機関間のネットワークやオンライン診療などを活用し、相対的に満足度の低い地域(特に郡部等)の医療をどのように改善するかの方が重要といえます。

千葉県の現状を見ると、圏央道の部分開通等を含む道路網の整備や国際医療福祉大学成田病院の開設などにより救急医療に対応可能な地域の中核病院へのアクセスは改善しつつあります。加えて、2023年度の千葉県「発達障害児等のためのオンライン診療推進モデル事業」など、オンライン診療・相談ができる医療機関の増加を促すための方策検討の取組みもみられます。オンライン診療の推進は、発達障害児など対面診療を得手としない患者や交通弱者、投薬を主たる通院理由とする患者等にとって利便性向上・負担軽減につながるほか、新型コロナウイルスのような感染症リ

スクを軽減できるというメリットもあります。加えて、医療機関の連携による機能強化など高水準の医療体制・サービスの確保も期待されます。

今後自然体では、高齢化のさらなる進行に伴う医療需要の増加や勤務医の時間外労働規制を背景に医師不足が予想される一方、地域によっては患者(人口)の減少により医療機関の経営が成り立たなくなる可能性もあります。疾病・診療科によっては、高度な医療を提供する拠点病院への集約化など、オンライン診療もさらに活用しつつ二次保健医療圏の枠を超えた効率的で持続可能な医療連携体制の構築と医療アクセスの平準化を並行して進めていく必要があります。

(3) 新たな感染症への万全の準備

国内で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されてから4年余りが経過しました。政府は、新たな感染症の流行を見据え、内閣感染症危機管理統括庁や厚生労働省感染症対策部を設置し、2025年には国立感染症研究所と国立国際医療研究センターを統合した国立健康危機管理研究機構を創設する方針を示しています。千葉県も、「緊急時の医薬品や医療資材の確保・備蓄」や「保健所の体制強化」など、感染症をはじめとする様々な健康危機に対応できる体制の整備を推進するとしています。

医療資源の安定的な確保は、新たな感染症が発生した場合でも、安心・安全な医療環境の確保につながることから、ヒト(感染症専門医療需要の将来推計をみると、「75歳以上」で大幅に増加する一方、「0～14歳」「15～39歳」では、2020年をピークとして減少傾向が続くと推計されます。また、少子高齢化についてみると、現役世代(15～64歳)人口対高齢世代(65歳以上)人口の比率は、65年頃には1・3(高齢者1人を現役世代1・3人が支える構図)近くになると想定されます。

このため岸田政権は、「異次元の少子化対策」を打ち出していますが、加速する少子化への対策は喫緊の課題であり早期実行が期待されます。

3. 医療資源を核とするまちづくりの推進

病院(医療施設)は、外来・入院患者とその家族や見舞い客、職員が施設の内外で飲食や買い物などを行うため、地域での消費需要を生み出す媒体にもなっています。このように医療施設を地域の「安心安全のシンボル」として位置づけるとともに、「人が集まる拠点」としての機能に着目して、「医療資源を核としてまちづくりを進める事例」が県内でもみられています。

2022年4月にまちびらきした旭市の「生涯活躍のまち・みらいあさひ」は、東総地域の中核病院である国保旭中央病院の隣接地に新たなまちを開発するプロジェクトです。商業・飲食施設のほか、特別養護老人ホーム・デイサービス施設、子育て支援施設兼多世代交流拠点など、幅広い世代が利用できる多様な機能を備える先進的な施設として全国の自治体から注目を浴びています。船橋市では、市立医

医(・モノ(防護具等感染対策物資)・施設(患者の隔離スペース)など)コロナ禍を通じて露呈した課題を教訓として生かし、平時から新たな感染症に備えた医療体制を整備しておく必要があります。

2. 誰もが住み慣れた地域で安心して医療が受けられる体制の確保

(1) 医療・介護連携の一段の促進と市町村との連携強化

すべての団塊世代が75歳以上の後期高齢者となる「2025年問題」とそれ以降の超高齢化社会に備えて、国は「地域包括ケアシステム」の構築を進めています。同システムの中で、高齢化が進むほど医療・介護サービス双方利用の可能性が高まるため、医療職・介護職間の情報交換や役割分担などの「連携」が一段と重要になります。医療・介護連携は、主に市町村単位で連携会議や職種間の合同研修などが行われていますが、医療職・介護職間の意識のずれいや地元医師会の注力度の違いなどもあって、連携の度合いには市町村(医師会)によって濃淡があり、十分な連携が進んでいない事例も散見されます。県も職種毎の研修やアドバイザーの派遣などを行っており、医療・介護連携が十分ではない市町村等へ引き続き支援していただければと思います。

(2) 在宅医療促進のための医療体制の整備促進

国全体の医療費が膨らみ財政負担も増える中で、政府は、施設医療・介護から在宅医療・療センターの移転に伴い、新病院建設地に鉄道新駅と新たなまちを建設するプロジェクト「ふなばしメディカルタウン構想」が始動しています。

介護施設では、三井不動産レジデンシャル(株)が大型シニアレジデンスの建設を進めており、県内では、「パークウエルステイト鴨川」(鴨川市)に続き、24年秋に「パークウエルステイト幕張ベイパーク」(千葉市)の開業が予定されています。

なお、22年12月に千葉県経済同友会が取りまとめた「千葉イノベーション構想」では、ヘルスケア分野における振興事例として、上記「シニアレジデンス」(幕張新都心周辺エリア)や「かずさアカデミアパークの技術の活用」(湾岸エリア)、「国際医療学園都市構想」(成田空港エリア)、「柏の葉スマートシティ」(東葛エリア)などの取組について触れています。千葉県では、産業用地の不足が県内への企業進出の足かせともなっていることから、国の特例制度などを活用した農地転用等により産業用地の不足を補う必要があります。交通インフラの整備促進とあわせて、大学医学部やベンチャー企業などで生まれたシーズの社会実装を促進するための質の高い産業施設の提供により、ヘルスケア産業等のさらなる振興にも期待したいと思えます。

※本調査レポートの詳細については、(株)ちばぎん総合研究所のホームページに掲載しております。ご興味がある方は、ご覧ください。

市町村職員の紹介

千葉県に派遣されている市町村職員をご紹介します。



市町村課 三上万里子 (東金市派遣)

千葉県の北東部、九十九里平野の豊かな大地の恵みを受ける東金市から派遣され早半年。当初は不安でいっぱいでしたが、県職員の方々の温かく丁寧な指導や他の研修生との交流にたくさんの良い刺激を受け、とても充実した毎日をごさせていただいております。

現在は、財政班で各種調査のとりまとめ・検収などを行っています。県としての視点に立つ日々の業務の中で、県内市町村の多様な財政事情を知るとともに、市町村の課題を俯瞰的に捉え、解決や発展に向けて思考することの重要性を意識するようになりました。

研修期間も折り返し地点ですが、ここでの貴重な経験や周りの方々との縁を大事にし、今後も様々なことを吸収できるよう、一日を大切に過ごしていきたいと思っております。



政策法務課 吉野 巨 (長南町派遣)

千葉県のほぼ中央に位置し、里山風景の広がる緑豊かな長南町から研修生として派遣され、政策法務課にお世話になっております。当初は新しい環境への戸惑いや政策法務の実務経験がなくて不安もありましたが、課員の皆様に支えていただき、安心して業務に取り組むことができています。

現在は、法規審査第一班で告示・公告を中心に法規審査業務に取り組んでおり、班員の方々の温かく丁寧なご指導、適切な助言を得て業務を進める中で日々多くのことを学びながら、貴重な経験をさせていただいていることを実感しています。

政策法務課で得た知識、経験を生かし長南町の発展に貢献できるように努めてまいります。そして何より研修でのご縁を大事にして、これからの職務に励んでまいります。



企業立地課 濱田 端人 (我孫子市派遣)

北に利根川、南に手賀沼を望む水と緑が豊かなまちとして親しまれ、かつては多くの文人が居を構えた千葉県北西部にある我孫子市から企業立地課に派遣されています。

企画・誘致推進班の一員として、県内への企業立地を促進するため、企業等を訪問し、県の魅力を発信するとともに、対話を重ねることで、多様化・複雑化する企業ニーズや動向の把握・ネットワーク構築に努めています。常に親身になってくれる上司や先輩方とスピード感もって職務に専念できることを誇りに思います。

県職員としての経験や繋がりを通して、新しいもの見方や価値観に出会えることができました。全ての出会いや貴重な経験に感謝しつつ、これからも「我・孫・子」の名のとおり、全世代の方に信頼される職員を目指し、業務に邁進していきたいと考えています。

自治落書き

次の100年に向けて「千葉開府900年」

「東路の道の果てよりも、なほ奥つ方」、平安時代中期に書かれた更級日記における上総国の紹介である。途方もない田舎、これが京の都の人による当時の上総国(千葉県)の偽りのない認識であろう。執筆を依頼されて何を書こうかと思ったときにふとこの言葉が頭に浮かんだ。しばし筆者による田舎と言われた千葉県の歴史語りに付き合っていたきたい。

「千葉」という名前が歴史の表舞台に出てくるのは、更級日記の作者が上総国から帰京して約100年が経った1126年、桓武平氏の一族である千葉常重が千葉に本拠を移したことに由来する。なお、千葉市ではこの年を千葉開府の年とし、2026年を千葉開府900年と位置づけて取組を行っている。

さて、千葉常重の子が鎌倉幕府初代将軍となる源頼朝に「司馬をもって父となす」と言われた千葉常胤であり、同族の上総広常が頼朝に誅殺されるとその勢力を継ぎ、房総に大きな勢力を誇ることになった。千葉氏は鎌倉時代中期の宝治合戦で北条氏に勢力こそ削がれたものの下総国を中心に生き残り、室町時代に入っても関東八屋形の一つに数えられる有力な氏族として続いた。

室町時代中期になると鎌倉公方足利氏と関東管領上杉氏の間で争いが起こり、これに端を発

した享徳の乱が起ると、関東地方は戦国時代に入る。下総国の千葉氏は上杉方だった本家が足利方の分家に倒され、本拠も千葉から本佐倉に移り、当時、上杉氏の勢力圏となっていた上総国・安房国には足利方の武田信長・里見義実がそれぞれ討ち入り領国化に成功した。

関東の戦乱は、足利氏と上杉氏の争いから上杉氏内部の争い、さらには伊豆国を足掛かりに関東に進出した後北条氏と上杉氏の争いに状況が移り、安房の里見氏・上総の真里谷武田氏も家中が両派に分裂して内紛が起る。その中で里見義実の孫にあたる里見義堯が犬掛の戦いで里見氏内部の争いを制し、さらに内紛で弱体化した真里谷武田氏の領国を切り取り、久留里城(君津市)を拠点に房総半島を代表する戦国大名に成長した。

1560年の長尾景虎(後の上杉謙信)による小田原攻め以降、里見氏は千葉氏の勢力圏である下総国への進出を図っていたが、1564年に下総国の国府台(市川市)で里見義弘(義堯の嫡男)と千葉氏を支援する北条氏康が激突した第二次国府台合戦において敗北し、後北条氏に上総南部まで侵攻される危機的な状況になった。この中で、1567年に里見義弘の居城である佐貫城(富津市)に迫った北条氏政との間に起こった三船山合戦において里見氏は後北条氏に大勝して、上総国を取り戻し、下総国

にも再度進出を果たした。

里見義堯が没した1574年頃から、後北条氏は再び房総半島への圧迫をはじめ、1577年に里見氏は後北条氏と和睦し、1585年には千葉氏が後北条氏に完全に従属した。その後、1590年に天下統一を目指す豊臣秀吉による小田原征伐で後北条氏は滅亡し、後北条氏側で参戦した千葉氏も滅亡した。里見氏は豊臣氏側で参戦したものの安房国のみが領国は削減され、上総国・下総国は徳川家康の領国となり、ここに戦国時代は終焉を迎えた。

「千葉」という名前が歴史上に現れてから、千葉氏の滅亡までを駆け足で眺めてきた。現在の千葉県は下総国の一部と上総国・安房国から成り立っている。国は3つに分かれていたものの、古代末期から中世にかけてお互いに大きく影響を受けていたことがうかがわれる。現代では生活圏の違いもあり一体感がないと思われることもあるが、温故知新という言葉もある。歴史を振り返りつつ、次の100年、千葉開府1000年に向けて、豊かな土地である「千葉」県一体で歩みを進め盛り上げていければいいと思いがら筆をおかせていただく。

(ちば☆はっけんでん)



令和5年度サマージャンボ宝くじ市町村交付金活用事業一覧

団体名	事業名
銚子市	子ども医療費助成事業
市川市	文化会館管理運営事業
船橋市	埋蔵文化財調査整理作業委託
館山市	子ども医療費支給事業
木更津市	子ども医療費助成事業
松戸市	戸定歴史館管理運営事業
野田市	日常生活介護費
茂原市	子ども医療費助成事業
成田市	国際文化会館管理運営事業
佐倉市	一般廃棄物収集運搬事業
東金市	子ども医療費扶助事業
旭市	乳幼児紙おむつ給付事業
習志野市	保育所運営費
柏市	防災施設及び防災資機材の管理事業
勝浦市	芸術文化交流センター管理運営
市原市	放課後児童健全育成事業
流山市	リサイクル推進事業
八千代市	リサイクル推進事業
我孫子市	子ども医療費助成事業
鴨川市	郷土資料館運営事業
鎌ヶ谷市	図書館蔵書・資料整備事業
君津市	中央図書館資料購入事業
富津市	図書購入事業
浦安市	文化会館指定管理料
四街道市	資料管理整備事業
袖ヶ浦市	子ども医療費助成事業
八街市	在宅老人介護対策費

団体名	事業名
印西市	子ども医療費助成事業
白井市	子ども医療費助成事業
富里市	資料整備事業
南房総市	災害時応急物資購入等事業
匝瑳市	子ども医療費助成事業
香取市	高齢者等の生活支援事業
山武市	成東図書館運営事業
いすみ市	子ども医療費助成事業
大網白里市	外国語教育推進事業
酒ヶ井町	プリミエール酒々井運営事業
栄町	防災行政無線事業
神崎町	給食費助成金事業
多古町	図書館運営事業
東庄町	給食費助成金事業
九十九里町	子ども医療費助成事業
芝山町	ごみ袋無料配布事業
横芝光町	図書資料購入事業
一宮町	子ども医療費助成事業
睦沢町	道路維持事業
長生村	国際化教育の推進事業
白子町	保育所児童福祉施設事業
長柄町	定住対策事業
長南町	ALT派遣事業
大多喜町	公民館管理運営事業
御宿町	防災関係事務事業
鋸南町	菱川師宣記念館主催事業



編集後記

今年の夏も異常な暑さとなりました。6月から8月までの全国の平均気温は、昨年と並び統計史上最も高い記録となったそうです。9月に入っても厳しい残暑が続いており、本誌発行時にはこの暑さが和らぎ、秋の気配を感じられていることを願います。

さて、本誌は前号から市町村紹介ページをリニューアルし、「まちのイチオシ」として、12の市町村の一押し情報を掲載しております。特に力を入れている事業や、観光スポットなど、今号も市町村一押しの情報が目白押しとなっております。

また、特集では、株式会社ちばぎん総合研究所の大塚氏に「安心安全な県民生活に向けた千葉県医療体制の確立に向けて」をテーマに、千葉県の医療体制の現状や課題、将来像等について、詳しく解説していただいております。

その他のページについても、千葉県からの情報など、充実した内容が盛りだくさんとなっておりますので、是非ご一読ください。

今回、ご寄稿等にご協力いただいた皆様、大変お忙しい中、本当にありがとうございました。次回の発行もお楽しみに！



市町村振興協会だより

事業の紹介

「振興ちば」をご愛読いただきありがとうございます。このページでは本誌の発行元である私ども千葉縣市町村振興協会の行っている事業のうち、宝くじ交付金の市町村への交付事業について紹介します。

市町村振興宝くじ交付金の市町村への交付事業

千葉県から交付されたサマージャンボ宝くじの収益金の一部を、「サマージャンボ宝くじ市町村交付金」として県内市町村に対して交付しています。

この交付金は公共事業をはじめ高齢化・少子化対応、芸術・文化の振興、災害対策、地域経済の活性化、環境保全など総務省令(地方財政法第32条に規程する事業を定める省令)で定める事業に活用されています。

令和5年度は総額5億円を県内市町村に交付し、次のような事業に活用されました。

【松戸市】戸定歴史館管理運営事業



【鎌ヶ谷市】図書館蔵書・資料整備事業



【酒々井町】プリミエール酒々井運営事業



【長生村】国際化教育の推進事業



なお、県内各市町村における交付金の主な活用事業の一覧は、左ページに掲載のとおりです。

ハロウィンジャンボ宝くじ 発売中! [2024年新市町村振興宝くじ]

ハロウィンジャンボ
5億円

1等・前後賞合わせて
1等3億円、前後賞各1億円

ハロウィンジャンボミニ
5千万円

1等・前後賞合わせて
1等3,000万円、
前後賞各1,000万円

当せんの
チャンス広がる!

パソコンや
スマホで
ネット購入!

宝くじ公式サイト <https://www.takarakuji-official.jp/>

9月17日(火)同時発売

発売期間/9月17日(火)~10月17日(木) 抽せん日/10月25日(金)
2024年新市町村振興宝くじ 公益財団法人 千葉県市町村振興協会 各1枚300円

この宝くじの収益金は市町村の
明るいまちづくりや環境対策、高齢化
対策など地域住民の福祉向上の
ために使われます。

この宝くじの収益金は、市町村に配分されます。
ご購入は、是非**“千葉県内”**の宝くじ売り場で!!

- 発売期間/9月17日(火)から10月17日(木)まで
- 抽せん日/10月25日(金) ■ 発売単価/1枚300円

等級	ハロウィンジャンボ		ハロウィンジャンボミニ	
	当せん金	本数	当せん金	本数
1等	3億円	12本	3,000万円	50本
1等の 前後賞	1億円	24本	1,000万円	100本
1等の 組違い賞	10万円	1,188本	—	—
2等	1,000万円	120本	100万円	1,500本
3等	100万円	2,400本	1万円	5,000本
4等	1万円	12,000本	3,000円	500,000本
5等	3,000円	1,200,000本	300円	5,000,000本
6等	300円	12,000,000本	—	—

※表中の当せん本数は、発売計画額(ハロウィンジャンボ発売総額360億円・12ユニット、ハロウィンジャンボミニ発売総額150億円・5ユニット)のとおりとなった場合



サーフィンクーちゃん